

私の工夫

文房具としてのTPPC ICT機器の効果的な 活用について

新見市立哲西中学校

教諭 小林 将人



1 はじめに

平成23年度より3年間、「フューチャースクール推進事業」（総務省）及び「学びのイノベーション事業」（文部科学省）実証校として、教育分野におけるICT利活用についての研究を行うこととなった。本校は県北に位置し、現在、全校生徒数57名、4クラス（特別支援学級を含む）の小規模な学校である。全校生徒と全職員にTPPC①が1台ずつ支給され、各教室には1台ずつIWB②が設置された。

2 授業実践例①

話す能力 【光村図書参照】
第1学年
故事成語を使って体験を紹介しよう

（目標）
TPCやIWBを効果的に活用し、故事成語が表す意味と同じような体験を分かりやすく紹介することができる。

どんなにすばらしい提示資料を作っても、伝える主体は人である。大切なのは話し手のキャラクター、選んだ言葉の使い方、話し方である。提示資料は、効果的に伝えるための方法の一つである。そこで、「いつ、どこで、だれが、どうした」ということがはつきりと伝わるように

発表原稿を作成し、その後に提示資料を完成させる」という授業プランを立てた。すると、完成した提示資料は、シンプルになった。また以前にも増して、聞き手に自分の考えを伝えようとする前向きな姿勢が見られた。「ICT機器の利点を理解させ、学習目標を明確に持たせる」とこの大切さに、改めて気付かされる実践となった。



生徒作品例

3 授業実践例②

読む能力 【光村図書】
第1学年 「少年の日の思い出」
第3学年 「月の起源を探る」

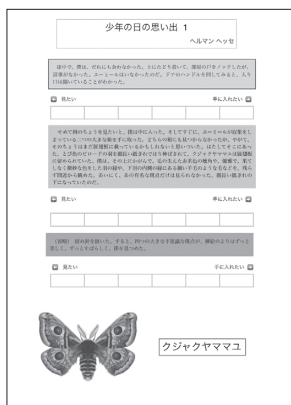
【文学的文章】「少年の日の思い出」
（目標）
場面展開や人物描写に注意して作品を読み、登場人物の心情の変化をとらえることができる。

「少年の日の思い出」（1年）では、①TPCを用いて、主人公の心

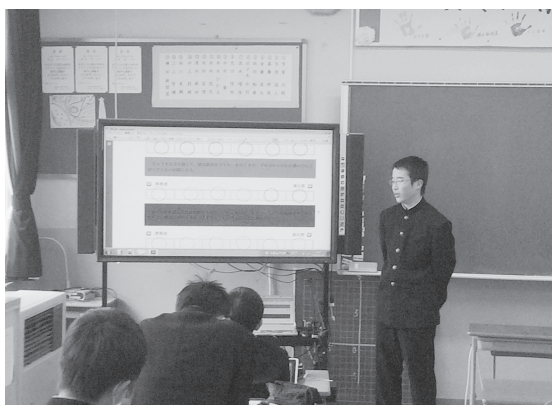


紹介の様子

情変化を個人で視覚化（PDFに変換したワークシートに色付け）させ、②IWBを用いて、全体表示を行わせた。



ワークシート



全体表示の様子

ICT機器を活用する利点の一つに、互いの情報を短時間で共有できるといことが挙げられる。提示された資料が完璧である必要はない。むしろ、言葉を用いて説明しなく

てはならない領域を残しておくことこそが大切なのである。自分の考えを伝えるためには、本文を何度も読み返し、考えの根拠となる部分を探したり、伝えるための言葉を選んだりしていく必要がある。そうすることにより、生徒は主体的に学習に取り組んでいることになる。ICT機器が、「考えるためのきっかけ」を与えてくれる実践となった。

【説明的文章】：「月の起源を探る」

（目標）
語句や図の使い方などに注意して読み、筆者の論理の展開のしかたをとらえることができる。

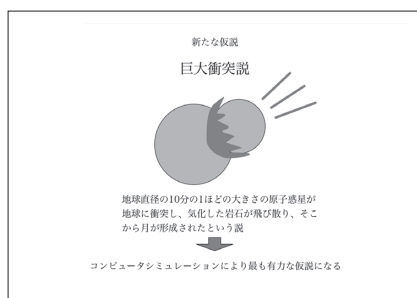
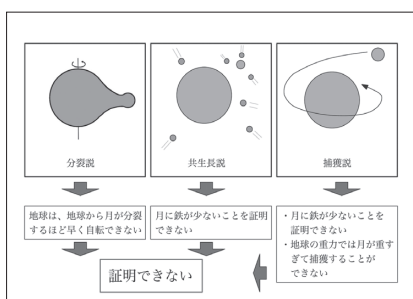
「月の起源を探る」（3年）では、

①TPCを用いて、「作者の伝えたかったことは何か」というテーマの提示資料を作成し、②IWBを用いて、全体の前で発表させ、③IWBとTPCを用いて、相互評価を行わせた。評価シートには、評価の観点を明確に示し、短いコメントも記入させた。

そして、共有用アプリを使って、評価シートを互いに閲覧できるように

にした。自身の振り返りと新たな課題設定の手段として効果的であった。共有用アプリとして、本校では無料のオンラインストレージサービスを利用している。

保存したり閲覧したりするのに便利である。（ただし、共有する情報には留意する必要がある。）また、指導者が評価する際にも、非常に役に立つ。情報がクラウド上にあるか



生徒の作成した提示資料

らである。もちろんそれがすべてではないが、一つの評価手段として有効である。

4 おわりに

鉛筆や消しゴム、ノートと同じようにTPCがある。そんな発想でTPCを授業の中で活用してきた。そして、いつの間にかTPCを媒介した新たな授業スタイルが確立されてきた。思考力や表現力、意欲・関心を高めたり、双方向のコミュニケーション手段として有効であったり、時間短縮や生徒の意見を引き出しやすくなったりなど、使い方を工夫すれば、とても便利な文房具である。しかし、生徒も指導者も便利な道具に使われてはならない。常に自戒しつつ、実践を続けていきたいと考えている。

※注

- (1) TPC：タブレットパソコン
- (2) IWB：インタラクティブホワイトボード